

# 令和6年度 第2回広島市感染症対策協議会

【日時】 令和6年5月20日（月）19:00～20:00

【場所】 広島市役所14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、金子 朋子、平賀 正文、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香

## 1 感染症に関する最近の情報

### (1) 新型インフルエンザ等対策政府行動計画改定案の概要について（資料1 P1～21）

4月24日第11回新型インフルエンザ等対策推進会議において、新型インフルエンザ等対策政府行動計画（以下、「政府行動計画」という。）改定案の概要が示された。政府行動計画は、感染症有事に迅速な対応を行うため、あらかじめ有事の際の対応策を整理し、平時の準備や感染症発生時の対策の内容を示すものとして、2013年に策定された。この度、新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、初めて抜本的な改定を行うこととされている。

主な改定内容として、「内閣感染症危機管理統括庁」や「国立健康危機管理研究機構（JIHS）」の設置等の体制整備、国及び都道府県の総合調整・指示権限拡充によるガバナンス強化等があり、また、全体を3期（準備期、初動期、対応期）に分けて記載するとともに、対策項目をこれまでの6項目から13項目にするなど、各種の対策が拡充・具体化されている。

具体的には、平時からの人材育成、訓練、保健所体制整備等の実施、ワクチンや治療薬の研究開発基盤の強化など特に準備期の取組が重要視されており、有事には予防計画や健康危機対応計画に基づく対応を迅速かつ状況に応じて実施することなどが求められている。

今後、本市においても、政府行動計画や県の行動計画に基づき、本市行動計画の改定を行う予定である。

なお、行動計画については、感染症法等の計画等の見直し状況などを踏まえ、おおむね6年ごとに計画の改定を行うこととされている。

（委員意見）

- ・ 行動計画の改定については、広島県と連携して進めてほしい。
- ・ 改定状況等について、中間報告してほしい。

### (2) 「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報」の発令について（資料1 P22～38）

5月2日、広島県は令和6年第17週（4月22日から4月28日）の定点医療機関からの患者報告数が、西部東保健所管内で警報開始基準値（定点医療機関当たり8）を上回ったため、「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報」を発令した。本市の発生状況は、定点医療機関あたり4.0を断続的に下回っている状況であるが、引き続き注視が必要である。

また、全国的に溶血性レンサ球菌により引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が増えており、令和5年は統計をとり始めた平成11年以降で最多の949件（速報値）が報告されたが、今年は昨年を上回るペースで報告されている。令和5年7月以降は、特に50歳未満を中心としてA群溶血性レンサ球菌による劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者の報告数が増加するとともに、届出時の死亡割合が増加傾向であるとの報告がある。本市においても、これまでは年間10件以下で推移していたが、今年は令和6年第19週（5月6日から5月12日）時点で既に12件の報告があり、過去最多の件数となっている。

感染予防策としては、手洗い、咳エチケット、擦過傷等の創部の清潔な処置があげられ、速やかに医療機関を受診することが重要である。

（委員意見）

- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生動向については、引き続き注意する必要がある。

(3) 2023/2024 インフルエンザの流行状況について (資料 1 P39～ 46)

2023/2024 インフルエンザの流行状況は、全国同様、令和 5 年第 36 週 (9 月 4 日～9 月 10 日) から患者報告数が増加し、過去 10 年で最も早く令和 5 年 9 月 7 日に流行入り、9 月 7 日 (流行入りと同時) 及び 10 月 5 日に注意報発令、11 月 24 日に 4 年ぶりの警報が発令された。そして、インフルエンザの患者報告数が警報継続基準値 (定点医療機関当たり 10) を下回ったため、令和 6 年 4 月 18 日、警報が解除された。この警報発令期間は、過去 10 年で最も長い期間であった。

さらに、本市におけるインフルエンザ様疾患 (COVID-19 を除く。) で休校や学級閉鎖等の措置を行った学校等の報告数についても過去 10 年で最も多く、第 19 週現在で延べ 813 件であり、2009/2010 シーズンに次ぐ報告数であった。

なお、令和 6 年 4 月 25 日付け通知「令和 6 年度インフルエンザ HA ワクチン製造株の決定について (通知)」により 2024/2025 シーズンのワクチン製造株が示された。

(委員意見)

- ・ 2024/2025 シーズンについても早い時期に流行入りする可能性があるため、発生動向に注意する必要がある。

## 2 4月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

区分	病名	令和6年4月分	令和6年5月分
		報告日 4/1~5/5	報告日 5/6~5/14 現在
2類	結核	14人 (結核9人, 潜在性結核5人)	2人 (結核2人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症		1人(5/14)
4類	A型肝炎	2人(1人(4/12), 1人(5/2))	
	レジオネラ症	1人(4/2)	
5類	アメーバ赤痢		1人(5/7)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1人(4/18)	
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1人(5/8)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3人(1人(4/10), 1人(4/15), 1人(4/19))	2人(1人(5/8), 1人(5/9))
	ジアルジア症	1人(4/11)	
	梅毒	6人(1人(4/1), 1人(4/8), 1人(4/18), 1人(4/19), 1人(4/22), 1人(5/1))	6人(2人(5/7), 1人(5/8), 1人(5/11), 2人(5/13))

## 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

( ) は届出日

## 4 その他《公開》

次回開催予定日 令和6年7月16日(火) 14階第7会議室

### 【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：4月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

## 1 患者情報

### (1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、4月は1,836人で、前月比0.39と大きく減少した。RSウイルス感染症は大きく増加、手足口病、流行性角結膜炎は増加、突発性発しんはほぼ横ばい、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎はやや減少、咽頭結膜熱は減少、インフルエンザは大きく減少した。

### (2) 特記事項

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は多い状況が続いており、第19週（5月6日～12日）に定点当たり2.68人の報告があった（図1）。県内では、第17週（4月22日～28日）に西部東保健所管内で警報開始基準値（定点当たり8）以上となったため、広島県は5月2日、県内に「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報」を発令した。手洗いや咳エチケットの励行などの感染予防対策が重要である。
- 手足口病は、乳幼児を中心に夏季に流行する感染症である。4月中旬から増加傾向となり、第19週に定点当たり2.23人の報告があった（図2）。回復して症状がなくなった後も2～4週間程度、便にウイルスが排出されるため、手洗いの励行、排泄物の適切な処理などの感染予防対策が重要である。

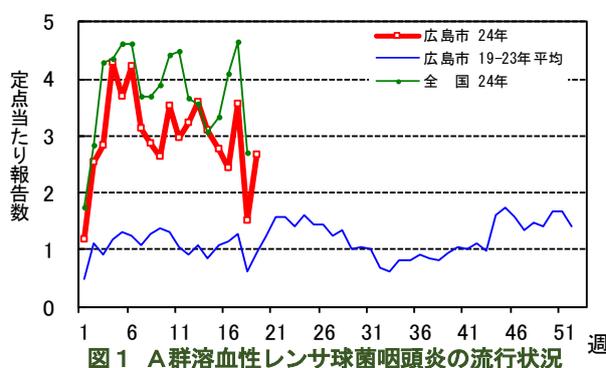


図1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況

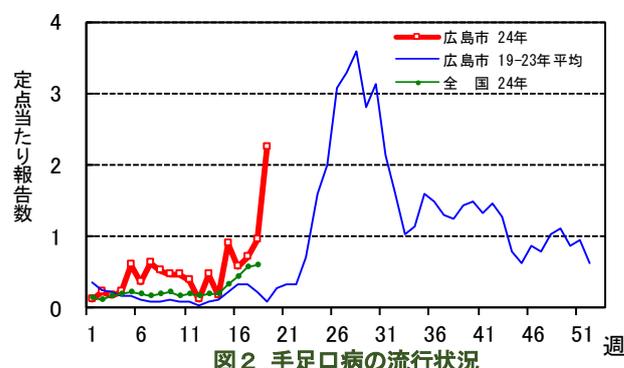


図2 手足口病の流行状況

- RSウイルス感染症は減少傾向であるが、多い状況が続いており、第19週に定点当たり1.00人の報告があった。生後6か月以内の乳児や慢性呼吸器疾患などの基礎疾患を有する高齢者などが感染した場合は重症化しやすいため、おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いや咳エチケットの励行などの感染予防対策が重要である。
- 流行性角結膜炎は多い状況が続いており、第19週に定点当たり1.75人の報告があった。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなどの感染予防対策が重要である。
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、3月下旬から横ばい傾向で推移しており、第19週に定点当たり1.46人の報告があった。また、高齢者施設等での集団発生は継続して報告されており、注意が必要である。引き続き、基本的な感染予防対策を続けることが重要である。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の今年の累計報告数は5月12日時点で12件となり、過去最多の年間報告数10件（2019年）を既に上回り、非常に多い状況である。全国では、2023年は949件（速報値）と過去最多の年間報告数であったが、今年は5月5日時点で801件と非常に速いペースで報告されており、注意が必要である。

### (3) 4月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核14件（患者：9件、潜在性結核：5件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：A型肝炎 2件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3件、ジアルジア症 1件、梅毒 6件

### (4) 今後の流行予測

インフルエンザ・・・【流行終息】、手足口病・・・【流行始まり】  
RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎・・・【流行中】  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。  
新型コロナウイルス感染症・・・発生動向に注意が必要である。

## 2 検査情報

4月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
インフルエンザ	B型インフルエンザウイルス	2024年3月	2人
RSウイルス感染症	*ヒトヘルペスウイルス6型 *単純ヘルペスウイルス1型	2024年3月	1人
その他の神経系疾患	ヒトヘルペスウイルス7型	2024年2月	1人

\*: 複数病原体検出例

4人の患者から4種類のウイルス5株が検出された。検出ウイルスの内訳は、B型インフルエンザウイルス2株、ヒトヘルペスウイルス6型、同7型、単純ヘルペスウイルス1型各1株であった。

## 3 感染症法5類全数把握薬剤耐性菌感染症患者からの分離菌株解析結果

(1) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌 (CRE) 感染症患者

届出年月	年齢	区	症状	分離検体	菌種	カルバペネマーゼ遺伝子型
2023年6月	95	中	尿路感染症	尿	<i>Enterobacter cloacae</i>	検出せず
2023年6月	82	南	胆管炎、腹腔内感染	腹水、胆汁	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	検出せず
2023年6月	62	南	菌血症、胆管炎	血液	<i>Klebsiella aerogenes</i>	検出せず
2023年6月	80	東	尿路感染症	尿	<i>Escherichia coli</i>	NDM-5
2023年7月	77	南	胆管炎	胆汁	<i>Escherichia coli</i>	検出せず
2023年8月	70	南	胆管炎	胆汁	<i>Escherichia coli</i>	検出せず
2023年8月	79	西	敗血症、胆のう胞内感染	血液	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	IMP-6
2023年10月	84	安佐北	肺炎	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	検出せず
2023年11月	59	安佐北	敗血症、尿路感染症	血液	<i>Klebsiella aerogenes</i>	検出せず
2023年11月	85	安佐北	胆嚢炎	胆汁	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	検出せず
2023年11月	87	安佐北	胆嚢炎	血液	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	検出せず
2024年3月	1	南	肛門周囲膿瘍	膿	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	検出せず

※検査対象カルバペネマーゼ遺伝子型: KPC, IMP, NDM, VIM, OXA-48, GES, KHM, SMB, IMI

2023年4月から2024年3月の間に12件の届出があった。分離菌株12株のうち、カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌は2株で、海外型カルバペネマーゼであるNDM-5遺伝子をもつ*Escherichia coli*及び主に西日本で検出が多いカルバペネマーゼであるIMP-6遺伝子を持つ*Klebsiella pneumoniae*であった。他の10株についてカルバペネマーゼ遺伝子は検出されず、カルバペネマーゼの産生は認められなかった。

## (2) バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症患者

届出年月	年齢	区	症状	分離検体	菌種	耐性 遺伝子	ST
2023年4月	73	中	発熱	腹水	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST80
2023年7月	65	中	発熱、感冒症状	喀痰	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST547
2023年8月	69	中	発熱	胆汁	<i>Enterococcus raffinosus</i>	<i>vanA</i>	-
2023年11月	83	安佐北	尿路感染症、発熱	尿	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST80
2023年11月	72	佐伯	尿路感染症、発熱	尿	<i>Enterococcus faecalis</i>	<i>vanA</i>	-
2023年11月	70	佐伯	尿路感染症、発熱	尿	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST547
2023年12月	90	安佐北	尿路感染症、発熱	尿	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST80
2024年2月	57	東	発熱、右足壊死性 筋膜炎	膿	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST80
2024年2月	53	中	腹膜炎、発熱	皮下ドレーン、 腹膜ドレーン	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST17
2024年3月	99	安佐北	尿路感染症	尿	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>	ST78

2023年4月から2024年3月の間に10件の届出があった。分離菌株10株の内訳は *Enterococcus faecium* 8株、*Enterococcus raffinosus* 及び *Enterococcus faecalis* 各1株であり、全て *vanA* 遺伝子を保有していた。*Enterococcus faecium* については、2020年以降本市におけるVRE分離菌株の多くを占める Sequence Type (ST)80が8株中4株であった。

5類感染症定点情報  
(令和6年4月解析分)

1. 週報対象(第14週～第18週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		232	6.71	終	11	ヘルパンギーナ		5	0.25	
2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		328	9.57		12	流行性耳下腺炎		1	0.05	
3	RSウイルス感染症		192	9.03	流	13	急性出血性結膜炎		1	0.13	
4	咽頭結膜熱		47	2.19		14	流行性角結膜炎		57	7.14	流
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		285	13.35	流	15	細菌性髄膜炎		-	-	
6	感染性胃腸炎		556	26.08		16	無菌性髄膜炎		-	-	
7	水痘		17	0.80		17	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	手足口病		71	3.31	流	18	クラミジア肺炎		-	-	
9	伝染性紅斑		-	-		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	
10	突発性発しん		30	1.41							

2. 月報対象(4月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		30	3.75
2	性器ヘルペスウイルス感染症		12	1.50
3	尖圭コンジローマ		12	1.50
4	淋菌感染症		10	1.25
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		13	1.86
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和6年4月分)

第14週～第18週(4月1日～5月5日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	14	33	1,605	4,963
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	7	19
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	8	155	467
	18 腸チフス	-	-	6	12
	19 パラチフス	-	-	2	3
四類	20 E型肝炎	-	-	52	182
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	2	3	24	47
	23 エキノコックス症	-	-	1	3
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	-
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	1
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	6
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	1	1
	32 エムボックス	-	-	3	13
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	23	32
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	-	8	66
	41 デング熱	-	-	19	58
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	40	43
	46 日本脳炎	-	-	-	1
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	6	11
	56 野兎病	-	-	-	-
57 ライム病	-	-	-	-	
58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
60 類鼻疽	-	-	-	-	
61 レジオネラ症	1	5	127	536	
62 レプトスピラ症	-	-	-	1	
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	-	-	58	187
	65 ウイルス性肝炎	-	1	23	66
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	2	194	625
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	6	12
	68 急性脳炎	-	4	48	215
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	3	9
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	10	57
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	10	205	801
	72 後天性免疫不全症候群	-	-	77	310
	73 ジアルジア症	1	2	6	16
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	66	225
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	5	14
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	5	284	957
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	49	155
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	6	43	1,321	4,374
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	25	76
	81 破傷風	-	-	2	19
	82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	3	12	43
	84 百日咳	-	1	121	261
85 風しん	-	-	2	4	
86 麻しん	-	-	-	21	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	